



『もっと！！本野通信』

No.109

諫早市立本野小学校長 永井洋

クリーン作戦

先日、6年生が「クリーン作戦」を行いました。これは、総合的な学習の時間の「地域貢献活動」として行われたものです。2時間ほどの間に、ペットボトル、空き缶、たばこの吸い殻など、ふくろいっぱいのごみを収集しました。

自分たちが生活する本野地区。できればゴミがない方が気持ちよいですが、人が生活する以上ごみは出てしまいます。しかし、それを「ポイと道端に捨てるのか」「ルールを守って処分するのか」で大きく変わってきます。一人一人が心がけて、気持ちの良い生活を送りたいものです。6年生の皆さんありがとうございます、この取組は必ず自分自身の成長にもつながります。



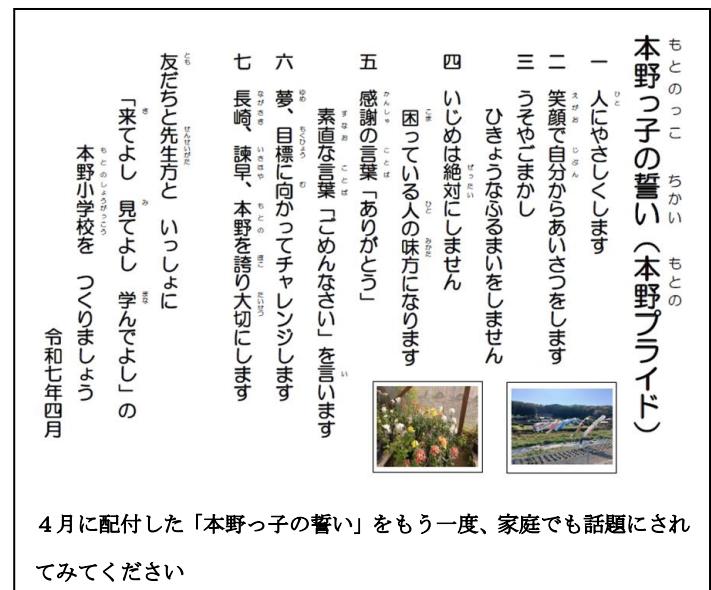
過ちを改めざること

先日、ある会（趣味の剣道を通した）で長崎県警の方と、警視庁の方のお話を聞く機会がありました。その内容は、「SNS 詐欺」や「闇バイト」についてで、最近のネット環境の急速な発展で、この種の犯罪に若者が被害者、加害者となるケースが増えているというものでした。特に、「闇バイト」については、「犯罪になる」という意識を十分持っておかないといけないと感じました。

「1度くらいなら」「こんなことになるとは…」「言われたことをしただけ」「自分は悪くない、被害者だ」等々と、いくら言い訳しても、犯罪に加担したことに変わりはなく、決して許してはもらえないことも分かりました。しかし、このような犯罪をしてしまう人にも、子どもの時があったはずです。もしその時に、間違えを正したり、よく考えたりする機会があったのなら、変わっていたのかもしれないとも思いました。

子どもたちは成長の途中です。時には間違えます。ですからよくないことは教え、諭し、正し、改める必要がでてきます。「ちょっとくらい遅れても」「少しくらいならいいよね」「自分だけじゃない」「わざとじゃない」「〇〇が悪い」…。ではなくて、失敗や間違いへの素直な省察ができる力を育てたいですね。幼い頃から、機を逃さない大人からの躾や支援が必要であるということです。

「過ちを改めざること これを過ちという」という格言があります。間違ったことをそのままにしていることこそが、一番の間違いであるという意味です。



4月に配付した「本野っ子の誓い」をもう一度、家庭でも話題にされてみてください